



震災を語る

東京都世田谷区立中町小学校 藤田

声のない叫びは煙となり／風に吹かれ空へと舞い上がる。／

言葉に一体何の意味がある／乾く冬の夕（「満月の夕」作詞山口洋・中川敬より）

2月22日、ニュージーランドの地震で行方不明になった28人の中に、教え子の名前があった。3月11日以後、新聞からはニュージーランドの記事が消えたが、インターネットで少しずつ身元が確認された。現地の人たちの粘り強い努力によって彼女の死亡が確認されたのは3月31日。わずかに残ったあごの骨二つに歯がいくつかから身元が判明した。28人のうち最後の2人となっていた。4月16日彼女の家を訪れ、ご両親の話を伺い、4月23日葬儀に参列した。その日は彼女の31歳の誕生日だった。

看護師だった彼女が仕事を始めた頃の日記が残されていた。医学の進歩によって生まれ、幼いころ死んでゆく子どもたちの看護にあたった彼女は、命を救えなかった看護師としての自分と向き合い、命の意味を見つめ言葉を残していた。看護師を7年勤めた後、ニュージーランドに渡り、国際的な看護師の免許を取得するために学んでいた。部屋にあったメモの断片から、彼女は国境なき医師団を目指し、その仕事に耐えられる自分であるかを自問する日々だったという。

ニュージーランドに続いて東日本で大震災があり、あまりの被害の大きさに、何をどう考えてよいのか分からないでいる。教え子の死と、多くの被害者が自分の中で重なる。言葉に一体何の意味があるのか。「満月の夕」の歌詞が心に住み

目次

1. 震災を語る 1
2. 東日本大震災と朝鮮学校 3
3. 日韓授業研究会との出会い
(~ing) : 私にとっての意味 8
4. 母の百年、大逆事件と韓国併合百年 9
5. 第17回 チョンソン交流会 実施要綱 11

つく。ニュースを見ながら、被災した一人ひとりにそれぞれの人生があり、志があり、歴史があり、友人があり、家族があることを思う。町ごと流され、名前が分からなくなっている人々にも同じように。

町は節電のため暗く、テレビは広告機構のコマーシャルが繰り返し流された。「日本は一つ」という言葉を聞きながら、原発による電力を使ってきた東京と放射能で家に帰ることができない人々との大きな断絶を感じた。「がんばろう日本」という言葉を聞きながら、搾乳した牛乳を毎日土に流した酪農家、収穫した野菜を捨て、新しい苗を植えることをためらう農家、放射能によって大切な海を汚された漁師の声を新聞で読んでいた。事故後の原発事故のニュースの中で、水俣病を隠し続けた御用学者たちのように、学者たちが繰り返し「安全」を語り続けた。しかし、その空しい言葉は、私たちの不安を大きくするばかりだった。

このような中、3月16日、波多野さんが韓国の会員に送った震災の報告に対して、メッセージが届けられた。

韓国の会員からのメッセージ

ソンソクチョン 日本の先生方がご無事だと聞いて安心しました。けれども多くの方々が犠牲になり、胸が痛みます。映画の画面のような現実を耐え忍び秩序を守っている方々に敬意を表します。どうぞこの災難が終わりますように。

キムジョンヒ ほんとはよかったです。どんなに驚かれたか、(波多野先生の)文によくあらわれています。このものすごい災難が克服されることを祈ります。

ヨジョンスク 数日の間に余りにも衝撃的な事件が起こって…。ことばもありません。振り返ってみるとわたしの周りで起こっていることは取るに足りないと思われれます。日本の先生方のつらい姿が想像されます。わたしたちがともに苦痛を分かち合う方法を探しましょう。

ヨヒスク 近くの日本で起こっていることを見て、自分たちが経験しているような感じがします。申し訳ない気もします。がんばってください！

パクチョンソン (みんなが無事で)不幸中の幸いでした。昔だったらこんな場合、二つの思いが葛藤したでしょうが、研究会のおかげで今はひとつの心です。みなさまできるだけ早く日常に戻るよう願うばかりです。

キムミンギョン ほんとはよかったです。けれどもやっぱり胸が痛んで…。

イインシク まず日本の会員たちが何事もなかったと聞き、不幸中の幸いでした。テレビで宮城県の被害の様子を見て、韓日湿地ネットワークのメンバーたちがいるのですが、まだ連絡が取れない方があって気を揉んでいます。研究会でも苦痛を分かち合う方法を考えるべきでしょう。

チョハンミ 何をどういえばいいのか分かりません。心配ですし、胸が痛みます。頑張ってください。苦痛を分かち合う方法を探します。

キムソンホ 自然災害がこんなに怖いとは…。住宅の破損や財産上の損害があったとしても皆さんご無事だと聞き、ほんとはよかったです。わたしが日本にいたとき震度5までの地震の経験がありますが、(それだけでもわたしにとっては恐怖そのものだったのに、家が揺れ、本棚から本が落ちるくらいでも)震度9の激震だとは。想像もつきません。それに津波に原発の恐怖まで。ともかく早くこの苦痛、恐怖から抜け出されることを祈ります。個人的には茨城県の安藤先生がほんとに心配だったので安心しました。

ヨヒスク いまや日本の消息は単なる日本の消息ではないです。交流会の先生方が住んでいるところです。たいしたことがなく早く復旧されることを願うばかりです。

本当に、嬉しく思う。隣国の友人の存在がこれほど力強い励ましになるとは。パクチョンソンさんが、「昔だったらこんな場合、二つの思いが葛藤したでしょうが、研究会のおかげで今はひとつの心です。」と書いている。「二つの思い」の一つは、日本が行った侵略による被害のことであろう。韓国の人々の正直な気持ちとして、このような災害を見て、日本が行った侵略による被害を思い起こすという事実を知らされ、同時に、「今はひとつの心」と語っていることの重さを考える。感謝の気持ちが深く起こされるからこそ、もう一度、東アジアの国と国の関係について考えてみる。韓国では、日本の戦争責任を問う市民団体が、早々に義捐金を集めたと聞く。

やはり私たちは語り合わなければいけない。原発の危険から韓国の側に来日に不安があり、日本側が「安全」であると確約できないのであれば、私たちが韓国に行こうと、第17回交流会の場所を韓国江原道チョンソンに決めた。炭鉦の町であり、アリラン研究所のあるところである。そこで、日本の震災を語り合う。この未曾有の災害の中で尚、差別される日本の社会におけるマイノリティーの存在。韓国の人たちはどのような気持ちで、この出来事を見つめているのか。歴史の前に被害者と加害者に分けられる私たちが、何を共有できるのか。日本の戦争責任はこの災害によって消されるのか。そして原発。今福島で何が起こっているのか。原発は何のためにあるのか。核の問題は東アジアの問題である。東アジアの未来はどのようなものなのか。整理されない広がりのある課題があり、本当に何をどう考えてよいのか分からない。しかし、私たちの前には子どもたちがいる。子どもの言葉を中心に置きながら韓国の友人と共に語り合いたい。

東日本大震災と朝鮮学校

東京学芸大学 大森 直樹

東日本大震災は、子どもと教職員に大きな被害をもたらしました。5月10日現在の文科省の集計によると、子ども（文科省関係の園児・児童・生徒・学生）522名と教職員30名の死亡が確認されています。その各県の内訳は、岩手で子ども62名・教職員8名、宮城で子ども385名・教職員19名、福島で子ども75名・教員1名、東京で教職員2名です。まだ行方不明の子どもと教職員のうち把握されている数は、岩手70名、宮城94名、福島22名です。これらの死者と行方不明者をあわせると738名です（表1）。

この738名について、私たちが知りえていることはまだ限られています。4月10日の朝日新聞や5月11日のNHKが事実の一部を伝えています。宮城県の石巻市立大川小学校では、教職員に引率されて避難する子どもの列を津波が襲いました。在籍児童108名のうち、68名の死亡が確認され、6名が行方不明、



義援金贈呈(大森撮影 2011年4月29日) Pa

学校にいた教職員 11 名のうち 9 名の死亡が確認され、1 名が行方不明です（5 月 11 日現在）。この 2 カ月、親たちは、瓦礫に覆われた学校周辺に通いつめて、子どもの姿を探し続けています。

戦後日本の教育現場が、これだけの被害を受けた経験はありません。遺された被災者の苦しみに、福島原発事故が追い討ちをかけています。

表 1 東北大震災による子どもと教職員の被害（2011 年 5 月 10 日時点）

都道府 県	死 者						行方不 明	計
	園児	児童	生徒	学生	教職員	計		
岩手	5	13	36	8※	8	70	70	140
宮城	64	156	132	33※※	19	404	94	498
福島	3	24	42	6※※※	1	76	22	98
東京	0	0	0	0	2	2	—	2
計	72	193	210	47	30	552	186	738

※県外の学生 5 名を含む ※※県外の学生 7 名を含む ※※※県外の学生 5 名を含む

文部科学省「東日本大震災による被害状況について（第 89 報）」2011 年 5 月 10 日より大森が作成

朝鮮学校では

東日本大震災と教育現場について考えるとき、忘れてはならない学校があります。宮城と福島に各 1 校ある朝鮮学校です。さる 4 月 29 日、宮城県仙台市にある東北朝鮮初中高級学校（高級部は休校中）を藤田直彦さん（東京の小学校教員・日韓合同授業研究会事務局長）と訪ねてきました。

仙台駅からタクシーで 20 分。小高い丘の上に朝鮮学校はあります。3 月 11 日の地震による人的被害はありませんでしたが物的被害がありました。鉄筋の校舎は南側に 2 度傾き、もう使うことはできません。人影のない校舎に入ると、1 階の職員室の壁は内側に崩れ落ちていました。



新学期が始まり、いま子どもたちは、かつての寄宿舎を仮校舎として勉強をしています。

崩れた職員室内壁
（大森撮影 2011 年 4 月 29 日）

大地は揺れても

初中級学校 30 名の子どもたちと震災を経験した尹鐘哲（ユンジョンチョル）学校長は次のように話してくれました。

まずお話ししたいのは、子どもたちのことです。市内の交通が途絶し、震災の当夜、家に帰れない子どもが10人ほどいました。電気・ガス・水道が止まり、余震とは思えないような激しい揺れが続くなか、自分だって怖いのに中3の女の子たちは小さな初級生を抱きかかえて励ましていました。子どもたちはがんばりました。

山形など県外に一時避難する子どももいました。私たち教職員は、「校舎が使えないのはあきらめよう。しかし、子どもたちがいつ学校に来て、いつでも勉強や試験、それに卒業式をできるように準備をしよう」と考えました。翌12日、揺れる校舎から生徒たちの机と椅子を運び出し、その椅子に座って会議を開きました。中級部3年の担任金順実先生の発言です。「あの子どもたちはずっと我慢をしてきました。級友が日本の学校に転校したときも、集団生活でつまずいたときも。でも、あの子どもたちがいたから、昨年10月10日にこの学校の創立45周年を祝うこともできました。どんなに小さい規模でもかまいません。卒業式を必ず行いましょう」。教職員の気持ちは一つになりました。

教職員は地域への支援活動にも取り組みました。水がなければ汲みにいき、ガソリンがなければ長時間並んで調達し、食堂を支援物資の保管場所、会議室、卒業式場、義援金伝達式場に変えていく作業も、力を合わせて笑ってこなしていきました。こうして、「大地は揺れても笑って行こう!」というスローガンが生み出され、3月27日に全員で初級部6年生の5人と中級部3年生の5人の卒業を祝うことができました。

ぜひともお伝えしたいのは、全国の方々からあたたかいご支援を頂いたことです。どれだけ励ましを受けたかわかりません。4月の新入生は初級部に1年生が2人、中級部に1年生が5人でした。12日、入学式が行われた食堂には、各地の同胞や朝鮮学校から送られてきた激励メッセージや横断幕を壁一面に張り出しました。



食堂に張られた「大地は揺れても笑って行こう!」

(大森撮影 2011年4月29日)

尹校長は触れませんでした。震災後、朝鮮学校の教員らは、学校に寄せられた支援物資を1日2食にしながらも近隣の避難所に配っていました。4月4日の『京都新聞』が次のように報じています。

東北朝鮮初中級学校(仙台市太白区)は校舎の壁が崩れ、傾いた。近所の高齢者らは敷地内の寄宿舎に身を寄せた。教師は宮城県内の避難所数カ所を訪れ、朝鮮総連や全国の在日の人から届いた支援物資で、数百人分のおにぎりや豚汁、焼き肉などの炊き出しをした。気仙沼市の神社では、孤立状態の避難者約100人に「初めて人が来てくれた」と歓声で迎えられた。「今後も物資を避

難所に配る。被災者に国境はない」。尹鐘哲校長(50)は力強く言い切る。

一人もきりすてない復興

震災後の教育現場を考えると、「一人の人間もきりすてない復興」という視点が大切だと思

います。教育の復興の質を問う試金石の1つに朝鮮学校との連帯があります。このような視点から現下の教育政策を検証するとき3つの問題が浮かび上がってきます。

3つの問題

一つは、文科省が朝鮮高校に対する「高校無償化法」(略称)の適用除外を続けていることです。この差別措置の起点が2010年4月1日の「同施行規則」(省令)でした。この省令は、同法が適用される外国人学校を3つに分割して、(イ)本国の高校と同等の課程であることが確認できる学校、(ロ)国際的な評価機関の認定を受けている学校、(ハ)文科大臣が別途定める審査基準に合致する学校の3種としました。同月30日、文科省は、朝鮮高校を(イ)(ロ)から外し、(ハ)の規定によって審査することを告示します。11月5日、審査基準と認定手続きが発表され、各地の朝鮮高校は手続きに入ります。しかし、同月23日の朝鮮半島における軍事衝突を「理由」に菅直人首相が手続き停止を指示し(24日)、今日に至るも手続きは行われていません。この手続き停止は「行政庁は、申請がその事務所に到達したときは遅滞なく当該申請の審査を開始しなければならず・・・」とする行政手続法第7条にも違反しており、東京朝鮮学園は1月7日に行政不服審査法にもとづく異議申し立てを行っています(詳しくは金東鶴「まかり通る「強盗の論理」—朝鮮学校への「無償化」排除と自治体の補助金問題」『インパクション』179号、2011年4月参照)。

二つは、地方自治体が朝鮮学校に対する補助金の支給を取りやめる動きです。東京都が昨年末に幼初中高の朝鮮学校への10年度の支給を取りやめる方針を表明。大阪府がさる3月8日に朝鮮高校への10年度の支給を取りやめる方針を公表(朝日新聞大阪府面3月24日)。埼玉県が初中の朝鮮学校への10年度の支給を停止。千葉県が初中の朝鮮学校への11年度の補助金を計上していないことが2月8日判明(朝日新聞ちば首都圏面2月9日)。宮城県では、さる3月25日、県庁から朝鮮学校に電話があり、尹校長が、教育振興補助金交付に関する申請書と添付書類を携えて県庁に赴きました。その席上、担当職員は「この度は地震による被害が大きかったため補助金を支給しますが、来年度(11年度)からは支給しません」と尹校長に一方向的に通告しました。尹校長が理由を問うと、「砲撃事件と県民感情」との回答です。何の責任も因果関係もない朝鮮学校の生徒に制裁を科すような行為であり、きわめて不当な措置と言わざるを得ません。

三つは、震災の復旧予算の執行に際して、朝鮮学校にも遅滞なく執行が行われることについて、まだ確約が得られていないことです。

どうしたらいいか

直ちに次の措置が必要です。まず、「高校無償化法」を朝鮮高校に適用することです。

次に、各地方自治体が少なくとも従前とおりに補助金を支給することです。神奈川県松沢知事は、10年度の補助金支給を決定する際、第二次世界大戦中に米国が日系人を敵性外国人として強制収容し、40年以上たって謝罪、補償したことに触れ、「外交上の問題から感情的になり判断を誤ってはいけない。歴史に学ぶことが必要だ」(神奈川新聞10年12月16日)と述べて、補助金支給の再検討に入ったものの結局は従来通り支給することを決めています。

そして、震災の復旧予算の執行を迅速に行うことです。復旧予算を朝鮮学校に執行することには95年の阪神淡路大震災時の前例もあります。

人間らしく生きたい

45年の敗戦時に、植民地主義を反省して、朝鮮人が朝鮮人らしく生きるための教育を補償（そして保障）していく責務が日本政府に生じていました。日本政府と日本人はその責務を怠るだけでなく、朝鮮学校の圧迫と差別を続けています。その非人間性に私が気づいたのは、歴史を学んでいた20代のころでした。腹の底から憤りを感じるようになったのは、日韓合同授業研究会への参加を通じて、東京の朝鮮学校を訪ねて交流を重ねるようになった40代からです。宮城の朝鮮学校訪問でも、交流の意義をたしかめることができました。

4月29日、宮城の朝鮮学校では、被災からの復興を期すために「宮城同胞たちの集い」が開かれ、県内の在日の人々が参集していました。歌劇団の圧倒的なパフォーマンスによる慰問公演が行われ、在日本朝鮮人人権協会の司法書士、税理士、弁護士による生活相談所も開設されました。日韓合同授業研究会からは、事務局長の藤田さんによって、4月30日のモイムで募った義捐金が尹校長へ手渡されました。

あたたかい雰囲気につつまれた会場では、大阪で寿司店「新明石鮓」を経営している菅本博夫さんと同店に勤める仲浩3さんによる握り鮓の実演と無料提供もあり好評を博していました。菅本さんは、阪神淡路大震災時にボランティアで阪神の各地に入ってお寿司の提供を行いました。その訪問地の一つが神戸市長田区の西神戸朝鮮初中級学校（現西神戸朝鮮初級学校）でした。それまで一歩も足を踏み入れたことの無かった朝鮮学校を訪ねて、お寿司を振舞うなかで、朝鮮学校に集う人々のあたたかさに惹かれていったといいます。今回の震災で、東北の朝鮮学校の被災があまり報道されないことに疑問を感じ、少しでも話題になればと考え、食材を持参して宮城の朝鮮学校を訪ねました。

この仙台の訪問で、民族を超えた交流の大切さを改めて実感し、「一人の人間もきりすてない復興」への思いを強くしています。



仙台に架かる虹 藤田撮影 4月29日

日韓授業研究会との出会い（～ing）：私にとっての意味

東京韓国学校 諸（チェ）

2011年3月1日（92周年、3・1節）、東京韓国学校に赴任してまだ1年も経ってないのに、学校の業務に追われ、今日が休みであるのが、嬉しいと思うのは、私が韓国人として尚且つ歴史を教えるものとしてなにか足りないのでは、と思う日々です。

日韓合同授業研究会（韓日合同授業研究会）に初めて出会ったのは、大学を卒業する前でしたが、その後、慶州での交流会（2000年）に参加して以来、10年経ったと思うと、時の流れの早さには本当に驚かされます。第2外国語から始まった日本語で、様々な出会いや刺激を受けながら、今は東京に辿り着いたと思うとそれも感謝しなければと思っています。

現在、勤務している東京韓国学校は、昨年偶然ネットで知り、たまたま国史（韓国史）科目の採用を見つけたからでした。国語や英語、数学など需要が多い科目ではないので、これにはチャレンジすべきだと考えました（知り合いも多いし、現地の言葉にも困らないし・・・）。日本もそうですが、韓国でも海外の韓国学校が何か所かあり、教員の中には自分の子どもの教育や自分の勉強など、さまざまな目的で海外への勤務を求める人々がいます。しかし、理想と現実の違いは想像を超えていました。

2010年3月末、東京ってこんなに寒いとは。もう春だろうと思って冬物を用意しなかった自分の甘い考えから、様々な生活問題や学校での業務に追われる新生活が始まりました。その上、日本語ができるということだけで、中2のクラス担任になりました。教育現場は韓国しか知らない。その上、高校での経験がほとんどで、思春期に入ったばかりの子どもたちは、手に余るものでした。いたずらやケータイ時代・ネット時代を象徴するような事件から万引き・子ども料金で電車に乗ろうとしたといったことなどが重なり、体調を崩す日々が続きました（中学校・高校を含めて私が担当するのは8科目です。社会科ですので、他より多いほうです）。

「私って、本気で生徒らと向き合っているのか」「今の仕事楽しいのか」と自問自答する日々が多くなりました。自分なりに在日の子どもたちの背景が知りたくて、様々な集まり（在日青年の集まり）にも参加してみたのですが、そこでも壁にぶつかり喧嘩もしました。

そのような中、いつものように自分の周りで励ましてくれる方々がいるということでした。くじけそうになった時、本校で行っている土曜学校を訪れたキム・ヨンテランさんからの日韓合同授業研究会の集まりへのお誘い、善元先生の多文化社会研究会へのお誘いや翻訳依頼など、今自分がいるところへの外側からの目に関心を持つ、新しいチャレンジができるというのは嬉しいことです。

まだ東京での生活は1年も経っていませんが、すでに10年はすぎたような気がします。自分の成長は常に生徒たちとともに行くのだろうと思うと恥ずかしさもありますが、皆さんにお会いしてからもう10年経ちました。これからの成長も応援してください。

※東京韓国学校は、初等部と中等部・高等部に分かれており、韓国から全校種を受け持つ校長が派遣されます。現地で採用される教員と、韓国で採用される教員もいます。本国から来る教員は2年から最大5年が任期です。学校のカリキュラムは韓国の教育課程で行われます。しかし、在日コリアンやニューカマーの子どもたち、そして、日本の大学を目指す生徒もいるため、同じ社会科の時間でも二つのクラスを分け、日本語で授業を受けることになっています。中等部の場合、学年ごとに二つのクラス（AとB）に分かれますが、その中でAクラスは日本語での授業を希望する生徒が10名前後にいます。詳細は本校ホームページ http://www.tokos.ed.jp/index_main.html をご覧ください。日本語でもご覧になれます。

母の百年、大逆事件と韓国併合百年

川辺

※この原稿は3月30日現在のもので開催地変更前のものです。

母は2月8日、99歳11ヶ月で老衰のため消え入るように息を引き取った。白寿を前にして、昨年は「百歳の祝い 川辺キンの思い出」として、生きた世界も含めて一冊の本にまとめることに集中した。高齢化社会になったといっても百歳まで生きるということは、生命の限界まで生きるということであり、昨秋には、町・都・国からも祝い状と祝いの品が届けられた。母は、89歳まで一人で暮らし96歳まで子ども達が4人交替で泊まり込み、その後老人ホームでお世話になり、最後の5日間を隣の診療所に入院した。

母の子どもは5人、私以外は70代、孫達は30～40代である。子ども達は進学・結婚・転勤で離れてそれぞれの地で暮らしを営んでいる。不安な先の見えない現在、壮年期に入った孫達にも、祖父母の生業・父母の子ども時代の暮らしや人のつながりを伝えておきたいと思った。戦中から戦後の暮らしや人のつながりは、今伝えなければ見えなくなる。沖縄の「南風原文化センター」の学芸員の方が戦前の地域の暮らしを再現しながら戦争の傷を考えようとしたように、自らの暮らし・生命の流れや地域社会で生きてきた實際を伝えておきたいと思った。

私の同級生はとても懐かしがって、すぐに電話や手紙をくれた。近所や親戚の方々も「子どもが一生懸命読んでいる」「一晩で読み切った」「いつも側に置いて、繰り返し読み直している」と言ってくれている。身近な歴史意識・感覚が求められているのだと思った。

母の百年は、表題にしたように、大逆事件と韓国併合の百年ともほぼ重なり合う。中島岳志氏は「文学者たちの大逆事件と韓国併合」の書評のなかで、「両者とも『国民』と『非国民』の境界をめぐる『国家的暴力』が発動された事件だ。一方は国内への暴力、もう一方は国外への暴力・・・」（『』は筆者）と述べている。その暴力の結果として「アジア・太平洋戦争」「第二次世界大戦」があった。父の弟は、兵士として中国から南方への移動の途中、マニラ沖で撃沈され死亡、母の姉は敗戦の前々日、疫痢の看病に来て自ら罹患して死亡、家族にとって忘れられない悲しみを与えた。母の妹の夫は憲兵として大連・旅順で勤務、シベリア抑留後帰国。妻は敗戦の1年後単身帰国している。

その後、冷戦下「日本の復興」という経済成長はしたが、アメリカの核の下・大国アメリカの半支配の下での日本国民の主権者としての自覚と行為は限定的であったといえよう。今や、戦後も65年経った。私たちも大人として生きてきた。戦争中を青年として生き、人生の最終期にある80代の方々がやっと体験を語りはじめた。戦争と戦後の経過も研究により次第に明らかになってきた。



『国家的暴力』を許してきた国民の側も、戦争責任に加え戦後責任を自らに問わなければならないところにいるのだと思う。大逆事件では26名の死刑判決がなされ、

Pa

12名がすぐ処刑され、名誉回復・復権がなされたのは100年後の今も9名だけという。韓国併合による日本の支配、敗戦による日本軍の解体のための米ソの占領に始まる南北分断の悲劇と緊張は今も続いている。日韓合同授業研究会は、『国家的暴力』を許さない人間的教育交流の組織と位置づけられるだろう。



母の百年、その後に続く孫・曾孫の未来を考えると、アメリカの「核」の下に安全はないことを自覚して、アジアと世界のこれまでと今を丁寧に見ていきたい。「暴力」を許さないために、新たな自然と人がつながる社会をめざして、小さいながら役割を果たしたいと思う。

《 補 「原爆の凶丸木美術館」 》

本の完成、母の死、と慌ただしい日々の中、切り抜いていた新聞記事があった。この美術館で、1～2月「大逆事件百年展示」があり、丸木夫妻の「大逆事件」と「足尾鉍毒の凶」の連作2点も展示するとあった。その後、丸木位里の妹の大道あやさんの死が、101歳被爆画家として、評伝と共に報ぜられた。画家だった母スマが殺害され、広島で花火工場を営んでいた夫が爆死、長男は傷害を負うという悲嘆を乗り越え60歳で絵筆をとったという。同館は9月、あやさんと位里・俊、スマの作品を一堂に集めた回顧展をする予定と伝えていた。

3年前の春、長年訪れてみたいと思っていたこの美術館を、波多野さんと見学。その年の暮れ、交流会の沖縄フィールドワークの下見で「佐喜真美術館」に行き、原爆投下の現実を絵筆をもって真っ直ぐに人々に伝えようとした丸木夫妻と米軍基地と隣り合わせに生きる沖縄の現実を考えようとする佐喜真道夫氏との心の共鳴に感銘した。翌年の夏の沖縄での交流会では、日韓両国の会員の方から「佐喜真美術館」に対する深い印象と共感がアンケートに寄せられた。そして、今夏は交流会のフィールドワークで「原爆の凶丸木美術館」を見学する。丸木位里・俊の生涯の仕事、家族の生涯と仕事にも思いを馳せながら「原爆」と人間・社会について考えたい。さらに、今、さかんに進められている「原子力発電」と「核軍備の拡散」について注目し、この技術の危険性について理解を深め、今の時代の責任について問いかけていきたいと思っている。

ここまで3月10日に書いた。翌日、東北・関東大震災が起きた。次々に報道される惨状は言葉を失うものであった。なかでも、「原子力発電」の事故と影響は心配していたことが起こってしまった。地震・津波大国日本でありながら原子力発電に依存する日常の便利さ・快適さの危うさを「計画停電」を体験しながら考えている。2万人を優に超える死者・行方不明者を前に、100以上の国と国際機関の支援もはじまった。韓国からも、研究会の仲間の無事確認とお見舞いが届けられている。・電力の3割は原子力に支えられていて今や必要悪か、と思いきや、今日30日、『週刊朝日』の「原発破局を阻止せよ！」(広瀬 隆)には、「日本に原発は、まったく必要ないのです」とある。もっと、しっかり目を開けて考えなければと思う。

第17回 チョンソン交流会 実施要綱（第1次案）

テーマ 東日本大震災と子どもたち

～震災、津波・原発事故から見えてきた日本・韓国・東アジア～

この震災の中で見えてきたこと、課題を、日韓の交流の視点に立って考えるとともに互いの文化を理解し、授業創造に取り組む。

場所 韓国 江原道 チョンソンとその周辺

宿泊場所 ハイウォンホテル
住所：江原道旌善(チョンソン) 郡
舎北(サブク) 邑 ハイウォン通り 265

日程 2011年8月5日(金)～8月8日(月)

8月5日(金) 13:00 バスにてソウルからチョンソンの宿泊所へ移動
18:00 開会式
19:00 夕食 自己紹介

8月6日(土) 午前 授業報告 「アリランについて」
チンチョンソン(アリラン研究所長)講演
午後 チョンソン見学バスツアー
夜 国別ミーティング

8月7日(日) 午前 カンチェスクさん(被爆者)講演
授業報告 「震災について」
午後 研究協議「震災、津波・原発事故から見えてきた日本・
韓国・東アジア」
夜 レセプション

8月8日(月) 午前 研究協議 交流会まとめ 来年度に向けて
12時30分 解散(昼食後) バスにてソウルへ移動

参加費 未定(前回は27,000円プラス年会費3,000円)

短信

◎ 今号からウリの編集を金竜太郎がすることになりました。日韓合同授業研究会は、私は第3回から関わってきました。チェヘジンさんと同じく、学生時代に関わってきました。これまで授業研では、実務的な仕事に携わってこれなかったのですが、これから少しずつ仕事をこなしていきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。



東北朝鮮初中級学校での焼肉を食しながらの同胞の集い
(大森撮影 2011年4月29日)

◎ ウリの発行が、本来は3月末を予定して

いましたが、東日本大震災の影響で、何もかも一時的に停止してしまっただけの状態ではありません。地震だけではなく、世界中から警戒されるようになった福島第一原発の爆発から、今年 of 交流会の開催地を変更せざるを得なくなったことに至り、授業研始まって以来の大混乱を迎えています。そのようなことから、今回大幅にウリの発行が遅れてしまいました。日韓合同授業研究会に関わっている方々、そしてご家族も大変な思いをされたことと思います。震災直後、様々な手段をつかって皆さんのご無事を知ることができ、とりあえずホッとしているところです。しかし、いつ、また同じような地震が起こるかもしれない不安、そして世界が注目している原発の不安と私たちは向き合っていかなければなりません。この先、復興に何年かかるのかもわからない状態ですが、真の意味での安全はいつになるのか？私たち自身のこれからの生活から見直していくことが、もとの生活を取り戻していくカギなのかもしれません。

◎ 5月19日(木)から23日(月)まで、雁部さん、板橋さん、佐藤寿子さんが交流会の下見に韓国に行ってきました。急ぎょ韓国開催となり、慌ただしい準備となってしまいました。今回は日本側主催の韓国開催という今までにない形で行おうと計画しています。次回のモイム(集まり)で下見の結果を詳しく聞くことができると思います。

ウリ 76号 2011年5月31日
日韓合同授業研究会

事務局連絡先

E-mail larrabee1991@yahoo.co.jp

会費納入先

郵便振替 00170-1-428530